

# 記念館新聞

福崎町立  
柳田國男・松岡家記念館  
〒679-2204  
神崎郡福崎町西田原  
1038の12  
電話：0790-22-1000

柳田國男生誕140年企画展

## 柳田國男の『故郷七十年』



『故郷七十年』  
(のじぎく文庫)  
昭和34年(1959)

記念館では、3月1日(日)〜31日(火)まで、柳田國男生誕140年を記念した企画展を開催します。

本展で紹介するのは、柳田國男著作の『故郷七十年』です。

この本は、國男が85歳のときに出版され、國男自身が半生をふり返ったさまざまな話が記されています。

國男や松岡家の人々が辻川という場所、ど宮崎修二郎『柳田國男アルバム原郷』(昭和63年初版)



重なる古写真とあわせて展示します。

## ひな節供(節句)



「流し雛」(鳥取)  
『年中行事図説』  
(岩崎書店、昭和28年)

3月3日は、ひな祭りです。この日に飾ったひな人形ですが、祭りの後はどうしますか。

『年中行事図説』ではひな人形を流したり、道の辻に送ってしまうという古い習わしがあるとあります。

そして、この習わしは、3月の初めにケガレを払う必要があり、人形にケガレを移して流していたことによると考えています。そして、このような人形の本来の意義が忘れられていく中で、次第に発達したのが、華やかなひな飾りであると記されています。



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆  
☆開館時間  
9時~16時30分  
(入館は16時まで)  
☆休館日  
月曜日、祝日の翌日  
12月28日~1月4日  
☆入館料  
無料

## 故郷七十年を 読む



名作著書紹介

ここでは、國男と福岡とを結ぶ大切な本である『故郷七十年』から、さまざまな話を紹介してきました。

実は、『故郷七十年』は『神戸新聞』に昭和33年(1958)1月9日から同年9月14日まで200回連載された「故郷七十年」がもとになっています。

「起筆の言葉」で國男は、自分の足跡と背景を記録することで、同世代やもともと若い人たちのためになつてほしいという気持ちをかねてから抱いていたことを伝えていきます。



『神戸新聞』昭和33年(1958)  
1月8日掲載  
複写資料(当館蔵)

「起筆の言葉」は、「故郷七十年」が連載開始となる前日(1月8日)の『神戸新聞』に掲載されました。



竣工式の様子(当館蔵)

今年、記念館は開館40年を迎えます。昭和50年(1975)が柳田國男の生誕100年にあたることから、財団法人柳田國男・松岡家顕彰会が設立されました。そして、同年11月23日に記念館の竣工式が約150名によって挙行され、翌24日に開館しました。

また、平成23年度には、「福崎町立柳田國男・松岡家記念館」として新たなスタートを切りました。

40年を迎えた当館の成長を、これからも見守ってください。

